



医師：島田 潔

池袋の西口～北口界隈で育ちました。繁華街というかピンク街で、子育てには向いていません。友達のお父さん達の肌には綺麗な日本画が描かれていました。



医師：宇仁 淳

長野県飯田市出身です。山菜やリンゴ、時に松茸が有名です。東京そして幼少期は伊豆の稲取で過ごしました。自然が豊富で金目鯛、伊勢エビなどが有名です。お酒がすみそうです。



医師：藤井 秀樹

私が生まれ育ったのは長野県の松本市という所です。山に囲まれた盆地で風光明媚な所です。長野はなぜか教育県と言われますが、小学校受験はおろか中学校受験もないのんびりとした所です。結論としては田舎ということですか(笑)



医師：鈴木 陽一

私の育った朝霞は私鉄が複数通り、池袋へ20分であることから朝霞市民などの荒川の南の人は埼玉県民だということを忘れようと思います。以前は朝霞二ツツジが有名で、小学校の時は牧場の近くを歩いたりしました。沢山のクワガタやザリガニが採れ、鈴木少年にとっては最高の場所でしたが、今はマンションや宅地になってしまいました。



医師：浅海 直

幼少期はほぼ杉並の西荻窪にて過ごしました。その頃は吉祥寺と荻窪に挟まれた寂しい、静かな街でしたが、田中角栄の列島改造論の前までは空き地が多く、よく友達と学校の後で草野球をしてました。その後、どんどん空き地は減り、遊ぶ場所はなくなりましたが、今はおしゃれなお店も増え、素敵なところになってます。



医師：伊藤 直

板橋のお隣の十条です。両親は書店と文房具店を営んでいました。十条商店街は個人商店が多く、洗い甘味処や団子屋もあります。ぷらっと散歩をしてみてください！！



医師：安井 宏仁

岡山出身です。岡山には岡山城と後樂園(日本三大名園のひとつ)があります。岡山城は外観が黒く、「烏城(うじょう)」とも呼ばれています。そのため、子どもの頃までお城は黒いものだと思い込んでいました。食べ物では鯖(さわら)がお勧めです。焼いても刺身でもとても美味しいです。



医師：三寺 隆之

私は、生まれも育ちも板橋区です。しかも小学校から大学まで、そして勤務先まで板橋です(笑)板橋区は昔広すぎて、後に練馬区と分離した区です。今でも住民数は多く、県によってはそれを上回る人数を暮らしています。



医師：御子柴 路朗

長野県伊那市生まれですが、水道水がほぼ「南アルプスの天然水」です。空気がきれいで、山もきれいです。ただし、本当に田舎です(笑)。



医師：糸山 智

私の出身地は名古屋です。”天むす”は偉大な発明だと思います。おにぎりとお天ぷら、極めて単純な組み合わせで誰でも思いつきそうですが今までになかった、とにかく美味しい、お弁当・おやつ・お土産などオールラウンド、小さいのでこっそり食べられる(でも臭いでバレる)・・・すばらしい！



医師：長谷川 大輔

私は環八と西武新宿線のあたりで育ちました。特に自慢と言えるようなものはなく、小学生の時には光化学スモッグで有名になったくらいです。畑だらけだったところに今は住宅だらけになり大分様変わりしてしまい寂しい限りです。



医師：中山 昇

地元の練馬の田柄は都内とは思えない、のんびり感が魅力でしょうか、下赤塚駅周辺の商店街はお隣の東武練馬と比べて寂れますが、味があります。



医師：丹下 徹彦

出身地は東京都新宿区です。自慢でもなんでもありませんが、小学校は1学年1クラス、20人弱でした。少子化真っただ中であり、卒業とともに廃校となりました。母校がないのは寂しいですね。。



医療～豆知識～ コーナー 今月のテーマ：食中毒

医師：糸山 智



「食中毒」と聞くと、食品にバイ菌が付着していて、その感染症として嘔吐や下痢などの胃腸症状が起こることを思い浮かべますよね。食品衛生法で食中毒は次のように定義されています。

「食品、添加物、器具又は容器包装に起因する中毒患者又はその疑いのある者(以下「食中毒患者等」という。)」すなわち、感染症だけでなく添加物や、容器に付着している化学物質などによる中毒も含まれます。ちょっと小難しくことを言いましたが、そうは言っても食中毒の主役(悪役)のほとんどはバイ菌です。

同法律では、医師は食中毒患者を診断した場合、直ちに保健所に届け出る義務があります。と言うことは、嘔吐や下痢をしている患者さんのほとんどは食品による胃腸炎なので、いちいち届け出るようになります。ただ、発症者が1人の場合、その人がこの数日に食べた物のなかでなにが原因かを特定することはほぼ不可能です。従いまして現実的には、同じ食べ物を食べた人が同時に発症した場合にのみ、原因が推定出来て届け出の対象となります。

過去に私が診た事例です。学生さんが嘔吐下痢で来院しました。たまたま聞き取りで二日前に焼き鳥屋で飲み会があり、その時の参加者が3人発症していたことが分かりました。1人だけなら届け出なかったのですが、3人の共通点が焼き鳥屋と分かったので、届け出の対象となりました。



～連携室からのメッセージ～

このコーナーでは当グループ連携室スタッフからのメッセージを掲載致します。



新規患者さまのご依頼について

どうぞお気軽にお電話でお問い合わせください。
 患者さまの氏名、生年月日、住所、連絡先、ご家族のこと、医療機関のこと(かかりつけ医、入院中、通院中、受診先なし等)、現在の身体状況(病状が重い、安定している)、必要な処方薬の残り日数、治療や処置(定期注射、点滴、皮膚の処置をしている等)、保険の種類、ケアプランや訪問看護について、わかる範囲で大丈夫です。
 お急ぎの場合はお電話で、急ぎでなければファックスでも構いません。
 当院では事前の面談や契約手続きの必要はありません。スムーズに初回から往診で対応できるようにしています。もちろん、ご希望があれば病院や患者さまへ事前訪問するので遠慮なくお申し付けください。
 当院の診療理念は「地域の事業所と患者さんの意向を重視し、事業所選択の自由を守る」ことにあります。
 それぞれの専門分野と個性を大切に医療/介護連携を守るために、力を合わせていきたいと思います。

